

ご 注 意

地盤の許容応力度及び基礎杭の許容支持力は、国土交通大臣の定める方法によって地盤調査を行い、その結果に基づき定めなければならないと規定されています。(建築基準法施行令第93条)

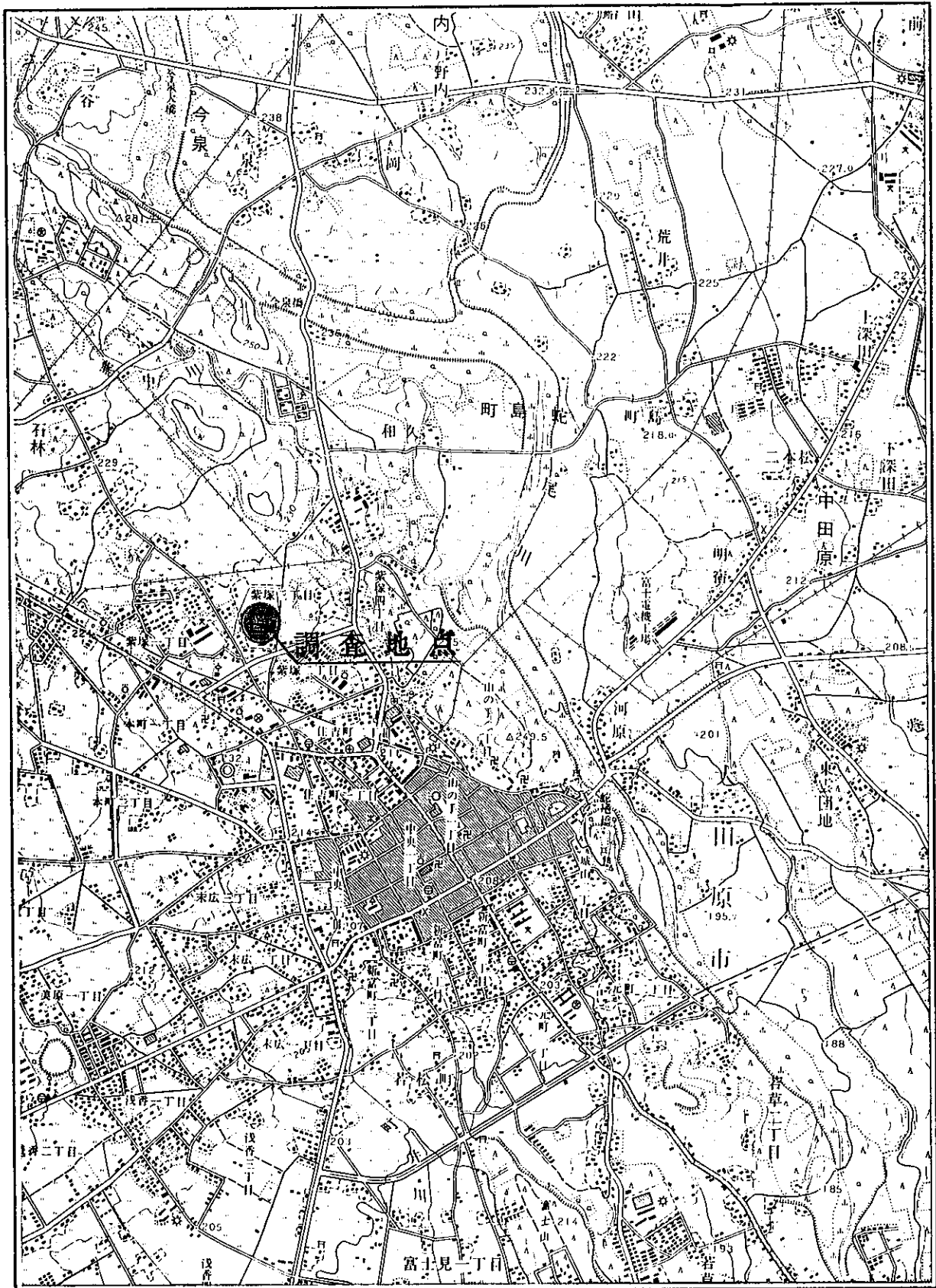
地盤構成並びに各地層の性状は、場所ごとに千差万別であることから、敷地（状況においてはその周辺も含めて）の地盤調査によって地盤構成等を的確に把握し、その結果に基づいて建物をどの地層に支持させるかを決定する必要があります。

したがって、本資料は計画段階における参考資料としてご活用ください。

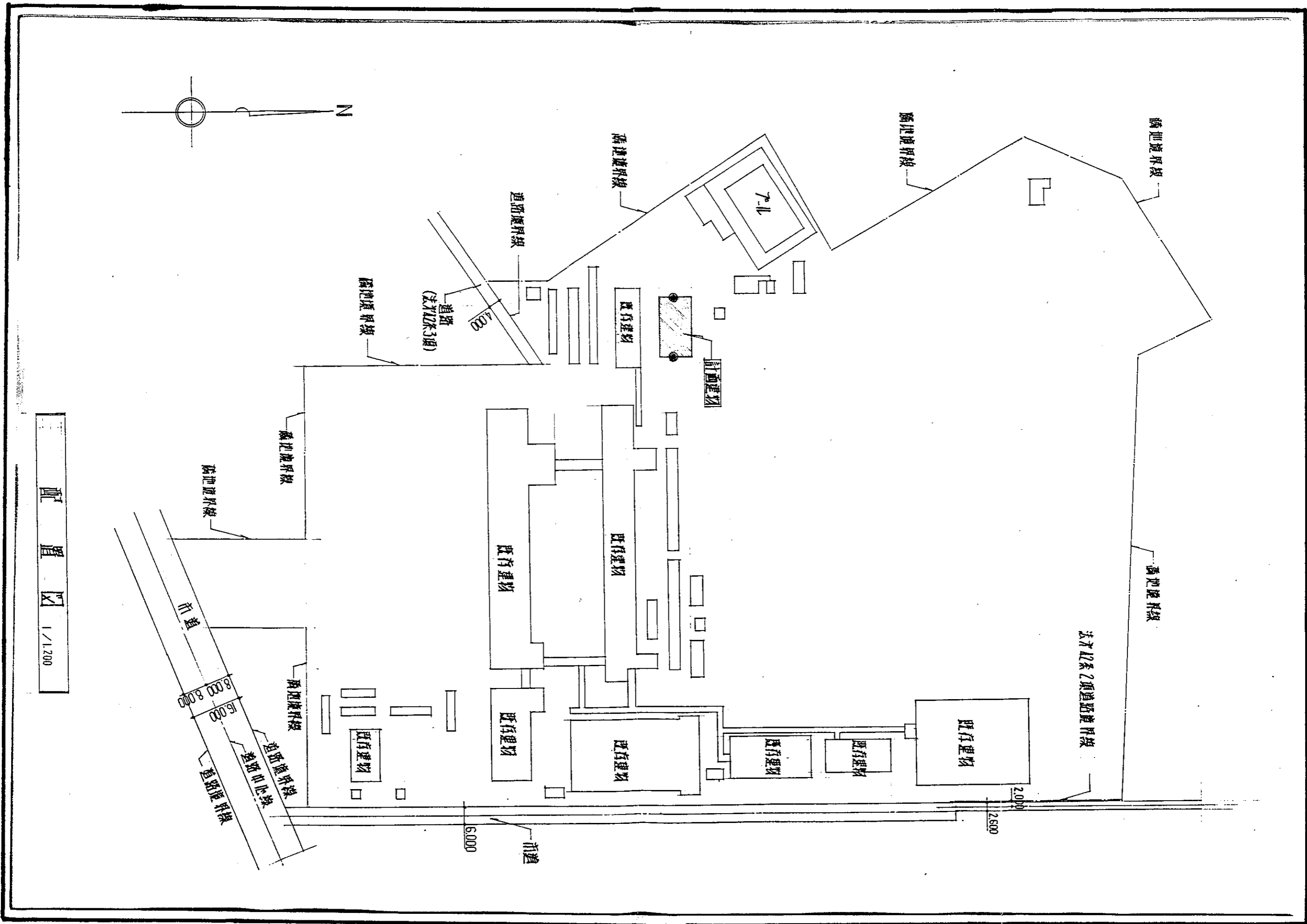
栃木県土木部建築課

調査地案内図

縮尺 1 : 25000



平面位置図



ボーリング柱状図

調査名 大田原高校家庭科実習棟新築工事

事業・工事名

ボーリングNo.

ボーリング名	No. 1		調査位置		大田原市築塚3-2651		北緯
発注機関	栃木県		調査期間	平成6年8月4日~6年8月8日		東経	
調査者名	主任技師		現場代理人	コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	99.91m	方位	試験機	KR-100		ハンマー	
総掘進長	20.40m	角度	エンジン	NS-8		落下用具	
			使用機種	ボンプ		V-6A	

シートNo.

掘進月日	室内試験	試験採取		原位置試験		標準貫入試験				孔内水位		記	
(日)	(日)	試料番号	採取方法	深さ	試験名	深さ	値	10cmごとの打撃回数	貫入量	測定日	水位	土質	相対稠度
8/4		1	◎	1.15		1.15	3	1	30	8/4	8/4	盛土	軟らかい
		2	◎	1.45		1.45	38	11	30		0.90	表土	軟らかい
		3	◎	2.15		2.15	30	13	24			砂礫	密なか
		4	◎	2.45		2.45	48	12	24				
		5	◎	3.15		3.15	30	10	9				
		6	◎	3.45		3.45	29	10	9				
		7	◎	4.15		4.15	30	24	26				
		8	◎	4.45		4.45	50	9	8				
		9	◎	5.15		5.15	26	9	9				
		10	◎	5.31		5.31	30	9	9				
		11	◎	6.15		6.15	26	9	9				
		12	◎	6.45		6.45	27	9	9				
		13	◎	7.15		7.15	30	2	5				
		14	◎	7.45		7.45	5	2	30				
		15	◎	8.15		8.15	30	23	18				
		16	◎	8.45		8.45	50	21	17				
		17	◎	9.15		9.15	50	21	17				
		18	◎	9.33		9.33	50	15	20				
		19	◎	10.15		10.15	50	15	20				
		20	◎	10.15		10.15	50	15	20				
		21	◎	11.15		11.15	50	15	20				
		22	◎	11.15		11.15	50	15	20				
		23	◎	12.15		12.15	50	15	20				
		24	◎	12.15		12.15	50	15	20				
		25	◎	13.15		13.15	50	15	20				
		26	◎	13.15		13.15	50	15	20				
		27	◎	14.15		14.15	50	15	20				
		28	◎	14.32		14.32	54	15	20				
		29	◎	15.15		15.15	50	15	20				
		30	◎	15.43		15.43	50	15	20				
		31	◎	16.15		16.15	50	15	20				
		32	◎	16.45		16.45	50	15	20				
		33	◎	17.15		17.15	50	15	20				
		34	◎	17.45		17.45	50	15	20				
		35	◎	18.15		18.15	50	15	20				
		36	◎	18.45		18.45	50	15	20				
		37	◎	19.15		19.15	50	15	20				
		38	◎	19.34		19.34	50	15	20				
		39	◎	20.15		20.15	50	15	20				
		40	◎	20.15		20.15	50	15	20				

全体にシルト・砂礫等の混合土
深さ0.3m付近よりコンクリート
・砂利等多量に混じる

旧土層の含有物混じる
上部を以て粘り帯びる
含水率中位

粒径Ma×100mm程度の大量を
帯に介在し、径5~20mm程度の圓
形礫を主にマトリッククス(基
質部)は粗砂にてうめられる
固結度は低くルーズな層相を呈す
粒径5~30mm程度の礫が主体
以深さ4.60m付近より砂分多
く混じる
深さ4.90m付近より礫の含有量
多くなる
所々粒径Ma×100mm程度の礫
が介在する
全体に含水多く含む層相である

上部若干の粘性帯びる
以深部風化のため土砂化しており、
全体的にスライム化となる
10cm未満の粗率状コアも採取さ
れるが部分的に土砂化する
深さ13.90m付近より、活岩流
を呈し砂状である
全体に不均質な層相を呈す
館の川礫灰岩を呈す

非常に密な
暗赤褐く暗灰

凝灰岩

ボーリング柱状図

調査名 大田原高校家庭科実習棟新築工事

事業・工事名

ボーリングNo.	
----------	--

ボーリング名	No. 2		調査位置	大田原市紫塚3-2651		北緯
発注機関	栃木県		調査期間	平成6年8月9日~6年8月12日		東経
調査者名	主任技師		現場代理人	コア鑑定者		ボーリング責任者
孔口標高	98.78m	方向	使用機種	ハンマー落下用ポンプ		コーンブリー
総掘進長	20.45m	角度	エンジン	NS-8		V-6A

シートNo.

標尺 (m)	層厚 (m)	標高 (m)	柱状図	土質区分	色調	相對稠度	相對密度	記	標準貫入試験		原位置試験	試験採取	掘進月日
									深度 (m)	N値			
1	0.58	98.20	×	表土	暗黒褐			上部若干の植物根混じる 以深全体に砂多量に混じる	1.15	16	深さ	1	8/9
2	0.67	97.53	○	砂礫	暗赤褐	密		全体に凝灰質の砂礫を呈す 礫径Ma X 100mm程度の大礫を 希に介在し、径5~20mm程度の 面状礫~円礫を主にマトリックス(基質部)は粗砂にてうすめられる 固結度は低くルーズな層相を呈す 全体に含水多く含む層相である	1.45	36	深さ	2	8/9
3	0.70	96.83	○	凝灰岩	暗赤褐 ~ 暗灰	密 ~ 非常に密		上部若干の粘性帯びる 深さ9.30m付近より10cm未満の短棒状コアも採取されるが部分的に土砂化する 深さ12.60m付近より、溶岩流を呈し砂状である 所々、砂と粗砂を混じる不均質な層相を呈す 館の川凝灰岩を呈す	2.15	36	深さ	3	8/9
4	0.70	96.13	○	凝灰岩	暗赤褐 ~ 暗灰	密 ~ 非常に密		上部若干の粘性帯びる 深さ9.30m付近より10cm未満の短棒状コアも採取されるが部分的に土砂化する 深さ12.60m付近より、溶岩流を呈し砂状である 所々、砂と粗砂を混じる不均質な層相を呈す 館の川凝灰岩を呈す	2.45	36	深さ	4	8/9
5	0.70	95.43	○	凝灰岩	暗赤褐 ~ 暗灰	密 ~ 非常に密		上部若干の粘性帯びる 深さ9.30m付近より10cm未満の短棒状コアも採取されるが部分的に土砂化する 深さ12.60m付近より、溶岩流を呈し砂状である 所々、砂と粗砂を混じる不均質な層相を呈す 館の川凝灰岩を呈す	3.15	25	深さ	5	8/9
6	0.70	94.73	○	凝灰岩	暗赤褐 ~ 暗灰	密 ~ 非常に密		上部若干の粘性帯びる 深さ9.30m付近より10cm未満の短棒状コアも採取されるが部分的に土砂化する 深さ12.60m付近より、溶岩流を呈し砂状である 所々、砂と粗砂を混じる不均質な層相を呈す 館の川凝灰岩を呈す	3.45	30	深さ	6	8/9
7	0.70	94.03	○	凝灰岩	暗赤褐 ~ 暗灰	密 ~ 非常に密		上部若干の粘性帯びる 深さ9.30m付近より10cm未満の短棒状コアも採取されるが部分的に土砂化する 深さ12.60m付近より、溶岩流を呈し砂状である 所々、砂と粗砂を混じる不均質な層相を呈す 館の川凝灰岩を呈す	4.15	38	深さ	7	8/9
8	0.70	93.33	○	凝灰岩	暗赤褐 ~ 暗灰	密 ~ 非常に密		上部若干の粘性帯びる 深さ9.30m付近より10cm未満の短棒状コアも採取されるが部分的に土砂化する 深さ12.60m付近より、溶岩流を呈し砂状である 所々、砂と粗砂を混じる不均質な層相を呈す 館の川凝灰岩を呈す	4.45	30	深さ	8	8/10
9	0.70	92.63	○	凝灰岩	暗赤褐 ~ 暗灰	密 ~ 非常に密		上部若干の粘性帯びる 深さ9.30m付近より10cm未満の短棒状コアも採取されるが部分的に土砂化する 深さ12.60m付近より、溶岩流を呈し砂状である 所々、砂と粗砂を混じる不均質な層相を呈す 館の川凝灰岩を呈す	5.15	40	深さ	9	8/10
10	0.70	91.93	○	凝灰岩	暗赤褐 ~ 暗灰	密 ~ 非常に密		上部若干の粘性帯びる 深さ9.30m付近より10cm未満の短棒状コアも採取されるが部分的に土砂化する 深さ12.60m付近より、溶岩流を呈し砂状である 所々、砂と粗砂を混じる不均質な層相を呈す 館の川凝灰岩を呈す	5.45	35	深さ	10	8/10
11	0.70	91.23	○	凝灰岩	暗赤褐 ~ 暗灰	密 ~ 非常に密		上部若干の粘性帯びる 深さ9.30m付近より10cm未満の短棒状コアも採取されるが部分的に土砂化する 深さ12.60m付近より、溶岩流を呈し砂状である 所々、砂と粗砂を混じる不均質な層相を呈す 館の川凝灰岩を呈す	6.15	30	深さ	11	8/11
12	0.70	90.53	○	凝灰岩	暗赤褐 ~ 暗灰	密 ~ 非常に密		上部若干の粘性帯びる 深さ9.30m付近より10cm未満の短棒状コアも採取されるが部分的に土砂化する 深さ12.60m付近より、溶岩流を呈し砂状である 所々、砂と粗砂を混じる不均質な層相を呈す 館の川凝灰岩を呈す	6.45	37	深さ	12	8/11
13	0.70	89.83	○	凝灰岩	暗赤褐 ~ 暗灰	密 ~ 非常に密		上部若干の粘性帯びる 深さ9.30m付近より10cm未満の短棒状コアも採取されるが部分的に土砂化する 深さ12.60m付近より、溶岩流を呈し砂状である 所々、砂と粗砂を混じる不均質な層相を呈す 館の川凝灰岩を呈す	7.15	30	深さ	13	8/11
14	0.70	89.13	○	凝灰岩	暗赤褐 ~ 暗灰	密 ~ 非常に密		上部若干の粘性帯びる 深さ9.30m付近より10cm未満の短棒状コアも採取されるが部分的に土砂化する 深さ12.60m付近より、溶岩流を呈し砂状である 所々、砂と粗砂を混じる不均質な層相を呈す 館の川凝灰岩を呈す	7.45	30	深さ	14	8/11
15	0.70	88.43	○	凝灰岩	暗赤褐 ~ 暗灰	密 ~ 非常に密		上部若干の粘性帯びる 深さ9.30m付近より10cm未満の短棒状コアも採取されるが部分的に土砂化する 深さ12.60m付近より、溶岩流を呈し砂状である 所々、砂と粗砂を混じる不均質な層相を呈す 館の川凝灰岩を呈す	8.15	35	深さ	15	8/11
16	0.70	87.73	○	凝灰岩	暗赤褐 ~ 暗灰	密 ~ 非常に密		上部若干の粘性帯びる 深さ9.30m付近より10cm未満の短棒状コアも採取されるが部分的に土砂化する 深さ12.60m付近より、溶岩流を呈し砂状である 所々、砂と粗砂を混じる不均質な層相を呈す 館の川凝灰岩を呈す	8.45	30	深さ	16	8/11
17	0.70	87.03	○	凝灰岩	暗赤褐 ~ 暗灰	密 ~ 非常に密		上部若干の粘性帯びる 深さ9.30m付近より10cm未満の短棒状コアも採取されるが部分的に土砂化する 深さ12.60m付近より、溶岩流を呈し砂状である 所々、砂と粗砂を混じる不均質な層相を呈す 館の川凝灰岩を呈す	9.15	40	深さ	17	8/11
18	0.70	86.33	○	凝灰岩	暗赤褐 ~ 暗灰	密 ~ 非常に密		上部若干の粘性帯びる 深さ9.30m付近より10cm未満の短棒状コアも採取されるが部分的に土砂化する 深さ12.60m付近より、溶岩流を呈し砂状である 所々、砂と粗砂を混じる不均質な層相を呈す 館の川凝灰岩を呈す	9.20	30	深さ	18	8/11
19	0.70	85.63	○	凝灰岩	暗赤褐 ~ 暗灰	密 ~ 非常に密		上部若干の粘性帯びる 深さ9.30m付近より10cm未満の短棒状コアも採取されるが部分的に土砂化する 深さ12.60m付近より、溶岩流を呈し砂状である 所々、砂と粗砂を混じる不均質な層相を呈す 館の川凝灰岩を呈す	10.15	30	深さ	19	8/12
20	0.70	84.93	○	凝灰岩	暗赤褐 ~ 暗灰	密 ~ 非常に密		上部若干の粘性帯びる 深さ9.30m付近より10cm未満の短棒状コアも採取されるが部分的に土砂化する 深さ12.60m付近より、溶岩流を呈し砂状である 所々、砂と粗砂を混じる不均質な層相を呈す 館の川凝灰岩を呈す	10.15	42	深さ	20	8/12